

国

語

(解答番号)

1

}

34

5 / L

2026年度 試験問題

国 語

試験時間60分

〔注 意〕

1. この問題冊子は指示があるまで開いてはいけない。
2. 受験番号が正しく記入・マークされていない場合は0点となる。
3. 解答はすべて解答用紙の所定欄にマークすること。例えば、問題文中に

10

 と表示のある問いに対して③と解答する場合は、次の(例)のように
解答番号10の解答記入欄の③にマークすること。正しくマークされていない
 場合は採点できないことがある。

(例)

解答 番号	解答記入欄 (マーク)									
10	①	②	●	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩

4. 問題冊子の各ページの余白は自由に使用してよいが、どのページも切り離してはいけない。
5. 試験終了後、解答用紙は通路側に置くこと。なお、問題冊子は持ち帰ること。

〈マーク式についての注意〉

1. 機械が読み取って採点するので、折り曲げたり汚したりしないこと。
2. マークはHBの鉛筆で枠の中を濃く塗りつぶすこと。
3. 1つのマーク欄には1つしかマークしないこと。
4. 訂正はプラスチック消しゴムでよく消し、消しくずはきれいに取り除くこと。
5. 所定欄以外には何も書かないこと。

問題一 次の文章を読んで、後の各問に答えなさい。

排除と差別は同じ事態のべつの表現である。排除ないし犠牲者作りがなければ、差別もない。排除されるものは、つねに差別されるものである。社会関係は、①「フダン」に排除のメカニズムを発動しつづけないと、自己保存ができない。秩序の再生産と排除の再生産とは一体なのである。かりに、排除すべき対象が存在しないとすれば、②「秩序のなかにある人間は幻想的にさへ排除の対象を作りだすことであろう。人間の内に巢喰う暴力は、見事に③「シユビ」一貫する。人間は幻想のなかでさえ、秩序の敵を、排除すべき異物を産出しつづけるという奇妙な性格をもっている」とさえいえる。人類は、古来、際限なく、異者を排除し差別しつづけてきた。

西欧では、ユダヤ人だけが差別され排除されてきたのではない。ユダヤ人以外に、ジプシーも排除されてきたし、近代ではブラック・アフリカの黒人、中近東のアラブ人も強い差別を受けてきた。宗教的理由で反ユダヤ主義がとくに顕著だったにすぎない。少数民族も排除と差別の対象であつたし、いまでもそうである。西欧だけでなく、アジアでも、南北アメリカでも、先住民や少数民族は、いつも排除と差別の対象でありつづけてきたし、いまでもそうである。だからこそ、少数民族の解放闘争が、世界中のあらゆるところで根強く遂行されている。彼らは、たんに弱いから排除され差別されるのか。それもあるだろうが、もつと根本的には、強い集団が排除することで自己の集団的同一性を作りあげているというこのほうが重要である。

いいかえれば、社会関係を形成する排除の論理とは、特定集団の同一性の形成の論理であり、④「同一性の原理は、異者を排除し犠牲者を差別する論理そのものである」。

近代西欧思想史から材料をとって、同一化という秩序形成の論理と差別の関係を考えてみよう。

近代の特徴は、世界のすべての事柄を対象化して把握するという点にある。対象化一元論が近代社会と近代文化において優越する。近代経済は、生産主義であり、近代政治は、個々人を市民として制作することを目指す。近代精神、とりわけ近代の主体哲学は、認識の面でも実践でも、自己と他者と自然を、

イ

とみなし、世界全体を能動的生産主体の生産物にする

傾向をもつ。ひとことではいえば、近代の考え方と行動の方法は、能動的主体の図式のなかに、客体としての世界を包摂し、包摂することで作りかえる。対象化という原理は、⑤「主観性の図式の内部への客体の同一化」である。同一化できないものが排除される。同一化不可能なものは、あたかも存在しないかのごとく処理される。

同一化論は、その内部に、差別化の分類図式をはらんでいる。主体は、自分の図式にあてはめうるものをアクセプタブルとして承認するが、アクセプタブルでないものは異物として差別し、差別したことすら忘却する。このやり方は無数の変形体を産むだろう。アクセプタブルなものなかもヒエラルキーが作られ、アクセプタブルでないものについても細かい分類表が作られるだろう。近代では、原理上どこにも見られる「排除を伴う秩序形成」の論理を、生産主義という攻撃的な対象化Ⅱ同一化論によって一層強化していく。自然への攻撃的で破壊的な関係は、反転して人間の内なる自然への関係となり、個々人自体が二重化し、⑥「対象化し同一化する支配的自己と対象化され支配される自己に分裂する」。

A

近代人の自律性という理念も、内実は、支配すべき身体的自己を規律し訓練する禁欲倫理精神に支えられている。他人に対しても同様な関係が見られる。自己にも他人にも、規律と訓練の視点（これこそ生産主義の倫理であり、経済合理性を生んだ精神であるが）から対応する近代の思考様式と実践様式は、異物に対して激烈な排除効果をおよぼすのである。近代西欧において、反ユダヤ主義がどの時代にもまして強化され、ユダヤ人の絶滅（ナチズム）にまでいたるのも、近代の生産主義倫理と同一化論の強化なしには考えられない。また久しいあいだ被害者であつたユダヤ人がパレスチナの地で、ヒトラーばりの排除と差別をアラブ人行使しているのも、近代の生産主義の社会的・文化的文脈なしには考えがたい（宗教のちがいのいうのは、道徳論と同様、表面的なことだ。近代以前では、パレスチナでは、諸宗教は平和共存していたのだから）。ようするに、問題は、同一化の論理は差別の論理である。この問題をさらに深く考えてみたい。

B

排除と差別のイデオロギーは、排除から生れ現実の社会関係の正当化の機能を果している。イデオロギーはかならず既存秩

序を正当化する。権力の正当化機能をもつからこそ、ある種の思想形態や精神のいとなみをイデオロギーとしてくりだすことができる。しかしなぜ排除と差別のイデオロギーがかくも強固であるのだろうか。なんともいうように、人間が啓蒙されていないからだとか、人間が倫理的でないからだ、といった理由ではとうてい説明がつかないのである。むしろ逆に、あらゆる人間社会が善意の人たちばかりでできていても、その善意が地獄を作るのだという視座を立てた方がよいのだ。これもすでにのべたが、再度確認しておこう。

C

人間中心主義（ヒューマニズム）は、もともと深い根底に、「人間は非人間ではない」というトートロジック（同義反復・*tautology*）な命題を抱えている。それは論理の問題ではない。これは「非人間とされるものに対して暴力的にふるまう物質力」なのである。

D

人間的なるものについて多くの定義が提案されてきた。「人間はロゴスをもつものだ」、「人間は語る存在だ」、「人間は思惟する存在だ」、「人間は美の意識をもつ」、「人間は労働する」等々。逆にいえば、提案された人間性の指標、すなわち言語、労働、美、理性、その他は、非人間にはないものと断定される。人間性の特性をもたないものは、たとえ人間であっても非人間と規定されるのは、事柄のなりゆきからいって必然である。

E

人間／非人間の区別は、最初は、そしてたいていは、人間／動物の区分として立てられる。アルカイックな人々（いわゆる「未開人」）は、人間と動物を区別したり、人間と動物の間に厳格な切断線を引いたりしない。それどころか、彼らは人間と動物との連続性を考えて、動物排除や動物差別のドライヴを解消している。そうした精神の構えは、自然と人間の関係一般にも作用し、アルカイックな人々は自然を破壊したり、加工し変形する行動はとらない。むしろ彼らは、動物を含めて自然界全体のなかに「インヒューマンなものもつ崇高さ」の感覚を保持しつづけている。^①近代生産主義の「作る精神」のみが、人間

と動物との連続性を切断し、人間と非人間の区別をあと戻りできない形で確立してしまった。人間中心主義は、人間であらざるものの全般的・決定的排除であり、非人間的なるものの絶対的差別なのである。

（今村仁司『近代性の構造』による。一部改変）

【出典…今村仁司『近代性の構造「企て」から「試み」へ』（講談社／1994）】

問一 傍線部（1）、（2）の片仮名に該当する二つの漢字と同じ漢字を使うものとして最も適切なものを、それぞれ①～④の中から一つずつ選び、マークして答えなさい。

1 4

(1) 1

- ① フキヨウを買う
- ② フコク強兵
- ③ フタイ条項
- ④ ギモンフがつく

フダン

2

- ① 厳しくシダンする
- ② カイダンを上がる
- ③ ダンケツ力を強める
- ④ 言語ドウダン

(2) 3

- ① ワクチンをセツシユする
- ② シユヒンの挨拶
- ③ シユコウしがたい説
- ④ シユギヨウの賜物

シビ

4

- ① ケイビな不具合
- ② ビモク秀麗な人
- ③ ビロウな話
- ④ ビチク米の放出

問二 波線部（a）とはどのようなことか。最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

5

- ① 幻想は秩序にとって異物なので、社会はそれを排除しようとする。
- ② 実際には存在しない事象を理由に、特定の人々を排除の対象にすること。
- ③ 現実には存在しない人々を想定して、社会的排除のシステムを作ろうとすること。
- ④ 集団的同一性を維持するために、排除と差別を幻想としてしりぞけること。
- ⑤ 犠牲者作りを幻想とみなし、秩序の再生産を排除の再生産と区別すること。

問三 波線部（b）とはどのようなことか。最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

6

- ① 弱い少数派を多数派に組み入れることにより、社会を単純化して強化すること。
- ② 少数民族の解放闘争を弾圧し、社会秩序の安寧をはかるということ。
- ③ 社会全体を同一であるとし、同一化不可能な異者を存在しないものとして扱うこと。
- ④ 少数派を対象化し、それを一元的に整理することで近代社会と近代文化において優越すること。
- ⑤ 少数派を異者として区別することにより、多様性の原理を社会秩序に組み込むこと。

問四 空所イに入るものとして最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

7

- ① 秩序の再生産と排除の再生産
- ② 制御可能な異物
- ③ 生産可能あるいは制作可能なもの
- ④ 対象化という原理では把握しきれないもの
- ⑤ 生産主義の観点から同一化不可能なもの

問五 波線部（c）とはどのようなことか。最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

8

- ① 主観的図式に客体としての世界を従属させ、その図式と同一化しうるものだけを受容すること。
- ② 主体を能動的に使うことにより同一化の対象を効率的に把握し、客体としての世界を包摂して作りかえること。
- ③ 近代の主体哲学が世界全体を能動的生産主体の生産物として捉える傾向をもつため、自己と他者と自然は主観性の図式のなかで存在しないかのごとく処理されるということ。
- ④ 個人の主観を尊重し、同一化は不可能であるという考えを受け入れること。
- ⑤ 世界の多様性という観念を、主観性の図式にのっとって分類すること。

問六 波線部（d）とはどのようなことか。最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

9

- ① 個々人は規律と訓練によって自己を統御しようとするため、アクセプタブルな対象を分裂した形でしか承認できなくなるということ。
- ② 自然への攻撃的で破壊的な態度は個人の内なる自然を異物としてしまい、精神が崩壊してしまうということ。
- ③ 個々人の二重化は、排除の能動性から精神を守るために必須の方法論であると同時に、対象化され支配される自己をアクセプタブルな異者にするということ。
- ④ 規律と訓練の理念は、個々人を市民として制作することをめざしているということ。
- ⑤ 個人の意識は自然に対して攻撃的な生産主義に支配され、それ自体が自然である身体的自己と分裂してしまうということ。

問七 波線部（e）とはどのようなことか。最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

10

- ① 少数民族が解放闘争という形で武力を行使すること。
- ② 人間的な特性をもたない規定された対象を、実際に社会から排除したり差別したりすること。
- ③ 世界全体を包摂し、人間的な特性をもたない規定された能動的生産主体に対して物質的に暴力を行使すること。
- ④ 支配すべき自己と他人に対して生産主義の倫理にのっとり規律と訓練を課し、現実の社会関係を正当化しようとすること。
- ⑤ 人間中心主義から、人間的なものを物質力によって暴力的に奪うこと。

問八 波線部（f）であるのはなぜか。その理由として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

11

- ① 人間中心主義は、人間的なるものについての多くの定義を作ることにより、人間と動物の連続性を崇高だと考える感覚を保持しつづけているから。
- ② 人間と非人間の区別は自然と人間の関係一般にも作用し、その結果近代精神は非倫理的な方向に進んだから。
- ③ 近代人の自律性は禁欲的倫理精神に支えられており、人間と非人間の区別はその倫理から逸脱しているから。
- ④ 近代生産主義を背景にした人間中心主義は、人間性の指標をもたない対象を非人間と規定し絶対的差別をしたから。
- ⑤ 人間／非人間の区別は排除と差別のイデオロギーに基づいて行われ、客体としての世界の対象化を断念したから。

問九 左枠内の文章は、本文中のA～Eのいずれかの場所に入るべきものである。入るべき場所として最も適切な場所を、後の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

12

排除と差別のイデオロギーをどことん追いつめていくと、究極には人間／非人間という切断線が走っていることが露呈してくる。人間であるか非人間であるか、という分類と区分は、けっして自然的でも、生物学的でもない。人間／非人間の切断と分類は、文化的なものである。文化的なものとはイデオロギー的なものであるということである。

- ① A
- ② B
- ③ C
- ④ D
- ⑤ E

問十 本文の内容に即した記述として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

13

- ① 秩序の再生産と排除の再生産は一体であり、それは同一性形成の論理にもつながる。近代の生産主義の主軸はそこにあり、「作る精神」によって自然と人間の関係性一般を尊重し、自然を加工し変形する態度はとらない。
- ② 同一化論は差別の分類を細かく作ること、差異と多様性を許容しようとする。その結果、人間と非人間の区別を同義反復的な命題として抱えこみながら人間性の指標を文化として強化することに帰着する。
- ③ 異者を排除し犠牲者を差別する論理は、人間が啓蒙されず倫理的に不完全なために行使されるのである。その解決は、人間の社会が善意の人たちばかりでできていても、その善意が地獄を作るのだ、という視座を強化することによって果たされる。
- ④ 近代の思考と実践の様式は、異物に対して激烈な排除効果をもたらす。それを回避するために人間中心主義が採用され、近代人の自律性という理念が社会秩序の中心に組み込まれることになった。
- ⑤ 「排除を伴う秩序形成」の論理は生産主義における同一化論によって強化され、排除と差別のイデオロギーとなる。このイデオロギーは究極的に人間と非人間の区別に至るが、それは非人間的なるものの絶対的差別である。

問題二 次の文章を読んで、後の各問に答えなさい。

外部の力による資源開発の進展は、人びとが土地という富と関わるあり方を大きく変えてきた。^{〔注一〕}ゴンマ王国時代、広大な未利用地の存在を背景にして、土地を「所有」することは、ほぼ「利用」する（森を伐り拓いて、労働力を投入して耕す）ことと同義だった。しかし、土地をみずから^{〔一〕}カイコンしても、^{〔注二〕}アムハラの貴族や国営農園から、^{〔a〕}その土地の所有は「正当ではないもの」とみなされ、退去させられてしまうようになった。その過程で、外部の圧力にあからさまに抵抗してきた農民たちも、しだいに無力化してきたかにみえる。しかし、農民たちは、国家の法を農村内部の論理によってずらしながら、自分たちの土地との関わり方を正当化する手段として利用しはじめている。

こうした介入と抵抗という文脈を超えて、農村の空間構成のなかには、意味の異なる「場」が歴史的に生み出されてきた。介入の結果として進展してきたコーヒー生産の拡大は、コーヒーという「商品」を生み出す場となると同時に、その商品のルートとなる「道」をつくりだし、そこを通じて多様な人やモノが行きかう空間を出現させてきた。あたかも中央からの介入の歴史が特定の土地に刻み込まれることで、村の空間のなかに異なる意味や価値が差し挟まれてきたかのようにも思える。

こうした空間の再構成は、農民たちの意識しないところで、彼らの扱うモノの意味を変化させ、そのモノをめぐる彼らの行為や社会関係のあり方を^{〔b〕}異なる論理で導くような「場」をつくりだしている。つまり、村の空間のなかに「商品交換」の原理があたりまえのこととしてくり返される場が生み出され、人びとは知らず知らずのうちに、「商品／非商品」というふたつの行為の形式を日常的に使い分けるようになっていく。

「市場経済化」という言葉や、「商品経済の^{〔二〕}シントウ」として言及されてきた現象は、ローカル社会の富の所有のあり方を一度におきかえてしまうわけでも、それを徐々に変質させてしまうわけでもない。それぞれの所有の形式は、農村社会のなかに同時に並存し、人びとはいずれも矛盾をきたすことなく、別々のコンテキストを構成する行為の形式として日常的な実践のなかに組み込んでいく。そのコンテキストの転換を、「道沿いの空間」と「居住空間」といったそれぞれの意味を担う「場」

が空間的に支えている。

さらに、もう少しミクロにみていくと、この空間の再編成のプロセス自体、つねに I な相互行為によって確認されたり、ずらされたりしている。どの場において、どのような行為がふさわしいとされるかは、その場で行なわれる行為の積み重ねのなかで定まってくるものだといえるだろう。

たとえば、妹が兄に商店から持ち帰られた石鹸を「分配」のモードでせがむという行為で、脱商品化の突破口が開けていた。たしかに、石鹸の占める「場」は、「商店」から「家」へと転換された。それでも、妹が「分けてくれるようせがむ」という行為にでるまで、その「モノ」をとりまくコンテクストが転換したということは家族のあいだで確認されたわけではなかった。デイノが妹に石鹸を分け与えたのを見て、すかさず父親は、「分配」のモードで対応できることを察知し、分け与えてくれるよう頼みにいく。そこで、デイノがさらに分配行為をくり返したことで、「石鹸」をとりまくコンテクストが、商品交換の形式から分配の形式へと転換したことが再確認されるとともに、その「家族が暮らす屋敷地」という場が II としての意味を強化したのである。こうした相互行為のプロセスにみられるのは、「独占される富／分け与えられる富」というふたつの富の形式と、それをどのような「モノ」や「人」や「場」に配置するかをめぐる人びとの行為の積み重ねである。そして、こうした配置を空間的に支えてきたのが、人びとの行為を導く「場」をつくりだしてきた歴史の力なのである。

さまざまな歴史が織り込まれてきた空間は、それ自体、人びとの行為を導く力を帯びるようになる。そして、人びとが日常的な相互行為をくり返し、その場の意味を確認したり、ずらしたりしていくなかで、場の意味が強化されたり、変質したりする。そこには、かならずしも国家の農村の土地への介入とそれへの抵抗という「大きな物語」だけでは語りきれない、人びとの日常的な行為の蓄積がある。

（松村圭一郎『所有と分配の人類学』による。一部改変）

〔注一〕 ギンマ王国：一八世紀末から一九世紀末にかけてエチオピアに築かれたとされる王国

〔注二〕 アムハラ：エチオピアの民族の一つ

問一 傍線部（1）、（2）の片仮名に該当する二つの漢字と同じ漢字を使うものとして最も適切なものを、それぞれ①～④の中から一つずつ選び、マークして答えなさい。

（1） 14

- ① ゲンカイを知る
② キンカイを運ぶ
③ コウカイ講座に向く
④ オンカイを確かめる

カイ
コン

（2） 15

- ① キュウコンを植える
② 不屈のトウコンをみせる
③ コンシンカイにでる
④ ミコンの民有地

（2） 16

- ① シンシな態度
② 他国にシンニユウする
③ シンカイを探検したい
④ 床下がシンスイした

シン
トウ

（2） 17

- ① トウセキ療法を受ける
② 宿にトウチャクした
③ 道がトウケツした
④ 物価がコウトウしている

問二 波線部（a）の理由として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

18

- ① 農民たちは自分で耕せる以上の土地を所有していないから
- ② 農民たちは商品価値の高いコーヒーを植えていないから
- ③ 農民たちは国家の法に則って土地を所有していないから
- ④ 農民たちはアムハラ貴族として認められていないから
- ⑤ 農民たちは次第に抵抗しなくなっていたから

問三 波線部（b）の本文中の例として適切でないものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

19

- ① 道沿いの空間と居住空間
- ② 商品と非商品
- ③ コーヒー生産と商品の道
- ④ 市場経済化と脱商品化
- ⑤ 独占される富と分け与えられる富

問四 空所Ⅰに入る語として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

20

- ① 排他的
- ② 論理的
- ③ 封建的
- ④ 権威的
- ⑤ 動態的

問五 空所Ⅱに入る最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

21

- ① 道沿いと位置付けるべき空間
- ② 富が分け与えられるべき空間
- ③ 家族の信頼関係を確認すべき空間
- ④ ローカル社会の富を代替すべき空間
- ⑤ 国家の介入に抵抗すべき空間

問六 本文の内容に即した記述として最も適切なものを、次の①～⑧の中から二つ選び、マークして答えなさい。ただし、解

答の順序は問わない。

22

23

- ① コーヒー生産の拡大は農民の考え方に大きな変化を促し、農民は交易商人として活躍している。
- ② 農民たちは外部からの圧力に抵抗するなかで、国家の法を使うようになった。
- ③ ゴンマ王国時代、農民による土地の所有と利用は明確に区別されていた。
- ④ デイノの父親が娘のあとに石鹸をねだったのは、父親の尊厳を守りたかったからである。
- ⑤ 農民たちは伝統を守るために、村の市場経済化に反対し、国営農園を支持した。
- ⑥ 日常生活のコンテクストの転換の是非は、最終的にモノの性質によって決定される。
- ⑦ デイノが妹に石鹸を与えたのは、商店から家に移ったことで、自動的に分配モードとなったからである。
- ⑧ 農民は複数の行動原理を矛盾なく利用し、日常的な相互行為を通じて、行為のふさわしさが決まる。

問題三 次の各問に答えなさい。

問一 文意が一通りに限定されるものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

24

- ① おととい開店したラーメン屋のチラシをもらったが、割引券ではなくてがっかりした。
- ② 一週間後に締め切りが迫った大量のレポートと動画編集を抱えて、私は逃げ出したくなった。
- ③ 私は息子より古着に興味をもつようになり、休日は古着屋巡りばかりしている。
- ④ 担当していたプロジェクトが無事に終了し、私はようやく遅めの夏休みをとることができた。
- ⑤ 運動能力が高い兄と弟のチームが、中学の球技大会決勝で学年を超えて対戦することになった。

問二 小説などの文芸作品における表現の場合を除き、日常の日本語表現としては適切でないものを、次の①～⑦の中から二

つ選び、マークして答えなさい。ただし、解答の順序は問わない。

25

26

- ① 政治改革について小学三年生の述べた意見が、あながち的外れではないことに人々は驚かされた。
- ② 旅先で知り合った老人が貴重な資料を見せてくれるというので、その老人のあとをついていった。
- ③ 組合は従業員の待遇改善を要求したが経営陣に聞き入れられず、退職者が続出した。
- ④ 新人社員ならともかく、入社十年目ともすれば自社の役員の顔と名前くらい覚えてはいるはずだ。
- ⑤ 地元の海の幸を提供する定食屋が閉店すると聞きつけ、昔なじみの客たちが次々と訪ねてきた。
- ⑥ 十年前ならいざ知らず、いまだにメールで原稿を送れない作家がいるだろうか。
- ⑦ 警備スタッフが着ている制服は借与されたもので、イベント終了後返却しなければならない。

問三 (1)～(5)の文の「」に入る語として最も適切なものを、それぞれ①～⑤の中から一つずつ選び、マークして

答えなさい。

27

31

- (1) 高校入学後、私は同世代のライバルたちと互いに「」琢磨しながら力をつけてきた。
① 玉石 ② 蛍雪 ③ 質実 ④ 切磋 ⑤ 刻苦
27
- (2) 今の社員で五十年前の事故について知っている者は、おそらく「」に等しいだろう。
① 杞憂 ② 皆無 ③ 極端 ④ 詳細 ⑤ 微塵
28
- (3) 少しの油断が災いし、私が苦労して制作した映画は低評価の「」にあうこととなった。
① 憂き目 ② 祟り目 ③ ひが目 ④ 弱り目 ⑤ 鵜の目
29
- (4) 「仕事忙しいから家事はできない」というかつての「」は、もはや家族に通用しない。
① 関所札 ② 免罪符 ③ 堪忍袋 ④ 大風呂敷 ⑤ 腰巾着
30
- (5) 情報過多の時代にあつて、創造的な仕事には「」黙考する時と場所の確保が欠かせない。
① 断捨離 ② 減私 ③ 沈思 ④ 達観 ⑤ 熟知
31

問四

(1) ～ (3) の傍線部 (a) ～ (c) について、表記または言葉の使い方の方の正誤の説明として最も適切なものを、それぞれ①～⑧の中から一つずつ選び、マークして答えなさい。

32

34

(1) 前会長の^a不正事の件は、後継者たちの思惑が^b絡み、調査が^c難抗している。

32

- ① (a) だけが誤り
② (b) だけが誤り
③ (c) だけが誤り
④ (a) と (b) が誤り
⑤ (a) と (c) が誤り
⑥ (b) と (c) が誤り
⑦ (a) と (b) と (c) が誤り
⑧ 誤りはない

(2) 司会者に話を途中で^a遮られた有名俳優は、^b露骨に^c兼悪感を表した。

33

- ① (a) だけが誤り
② (b) だけが誤り
③ (c) だけが誤り
④ (a) と (b) が誤り
⑤ (a) と (c) が誤り
⑥ (b) と (c) が誤り
⑦ (a) と (b) と (c) が誤り
⑧ 誤りはない

(3) 地域の^a復興をめざして国道^b傍に新設された道の駅は、連日活況を^c提している。

34

- ① (a) だけが誤り
② (b) だけが誤り
③ (c) だけが誤り
④ (a) と (b) が誤り
⑤ (a) と (c) が誤り
⑥ (b) と (c) が誤り
⑦ (a) と (b) と (c) が誤り
⑧ 誤りはない